

世田谷村日記

石山修武

四月三〇日

朝の光の中で見る山口勝弘さんの絵は実にたおやかで美しい。  
世田谷村はチョットとしたギャラリーの様相を呈してきたな。今朝は研究室の定例ミーティング、昼からゼミ、午後のGスタジオと終日大学だな。

夜

二〇時前世田谷村に戻り、夕刊二紙読んで特に毎日新聞のテリー伊藤の現場チャンネルなる大きなコラム読んであきれた。このコラムは新聞メディアの、TVメディア特に芸能界への批評の意味が込められているのだから、要するにスーパースター論であり、郷ひろみという昔のスターを知り合いとして得意気にTV芸能界特有の馴れ合いの中で書いているのだが、実に平板な俗論の垂れ流しであり、こんな書きモノにコレ程のスペースを割く事に今の毎日新聞の弱体振りがうかがえるのである。郷ひろみが何故日本脱出ならぬニューヨーク住まいで、離婚したとかしらないとかを論じるのに、これ程のスペースを割く見識とは何か。毎日新聞の命運極まれの感深し。毎日新聞記者故佐藤健を介して毎日新聞には親近感を持つ身なので余計に残念である。テリー伊藤が良き野党精神を体現しているとは考えられぬし、考えの浅さが庶民を代表しているとも思えぬ。テリー伊藤がバカなのではない、もともと俗なんだから、伊藤にこんなに書かせている愚かなジャーナリストが居るって事。新聞人が新聞にツバを吐きかけているよ

うなものだ。TVバラエティーが好まれ続ける消費社会が続くならば新聞は堂々と負けて亡びてゆけば良いのだ。TVに勝つたり負けたりを考えては、ライブドアの社長と同じ世界に落ちてしま